



**南有馬** いつまでもお元気で

## 100歳おめでとうございます!



▲100歳を迎えられた藤田ツボミさん



▲100歳を迎えられた三輪まき系(まきえ)さん

平成18年11月20日(月)、南有馬町のグループホーム菜の花に入所されている藤田ツボミさんへ、100歳になられたお祝いとして、長寿祝状や祝い金・花束を松島市長が届けました。藤田さんは明治39年11月16日生まれ。松島市長は明治、大正、昭和、平成とわたり、地域社会に貢献されてこられましたことにねぎらいの言葉をかけ、これからも元気に過ごされるように手を握りました。

そして長生きの秘訣についてお尋ねすると、藤田さんはにっこり笑っておられました。つまり、「笑いが一番の秘訣」ということなのでしょう。

また12月12日(火)、松島市長が現在浦上病院(南有馬町)に入院中の三輪まき系(まきえ)さんを訪れ、8日に100歳を迎えられたお祝いをしました。三輪さんは明治39年12月8日生まれ。「99歳まで、自宅で過ごしていました」と、言われる三輪さんはとてもお元気な様子。市長が「次は120歳のお祝いにつけていきますので、いつまでもお元気で」とお祝いの言葉をかけると、「もったいない(言葉)です、本当にありがとうございました」と感激しながら話されました。

**市全体** 100点の人間はいない。でも、0点の人間もいない……。

## 落語家 露の新治さん人権高座

12月2日(日)ありえコレジヨホールで、「新ちゃんのお笑い人権高座」と題した人権・同和問題講演会が行われ、会場には笑いを通して人権問題を考えようと多くの来場者が訪れました。

高座では、不当な分けへだてについて、「赤ちゃんも寝たきりの高齢者の人も同じです。生まれてから一生を終えるまで、年齢によって分けへだてをしてはいけません」とか「数が多いことが正しいというのは、大きな落とし穴です。多勢が正しいとは限りません」など、面白い内容ながらもドキッとしてしまうような鋭い内容で、来場者は手をたたいて笑いながらも、大きくうなづく場面がいくつも見られました。

そして、差別は「人からうける被差別」「人にする差別」「自分で自分にする差別」の3種類があることを指摘。特にコンプレックスや劣等感、自分差別であることなど、わかりやすく話されました。また、「他人のことを意識しすぎて、自分を見失わないように」ともアドバイス。最後に、『人権』というものをわかりやすい言葉でこう話されました。「人権とは、あなたが笑顔で、私が笑顔でいられること」と。自分の行動が人にどう影響を与えるか、じっくり考えることが人権問題への第一歩かもしれない。



▲なるほど!! 上手い表現ですね

**市全体** 創造と連携の輪を広げて  
～心豊かな21世紀を～

## 第1回 南島原市老人クラブ大会



平成18年11月30日(休)ありえコレジヨホールで、南島原市発足後初めてとなる「南島原市老人クラブ大会」が開催され、市内8地区190の老人クラブのみなさん約500名が参加し、会員相互の福祉の向上と組織の充実を誓いあいました。

大会では「『健康、友愛、奉仕』の三大運動のもと、高齢化の進む現代社会の中で、高齢者のはたす役割がますます大きくなっていることを自覚しなければならぬ」ことを宣言し開会。齋村真照(さきむらまこと)称名寺住職による記念講演や各地区老連の皆さんによる舞踊やカラオケなどの演芸発表で親睦を図りました。

また、大会冒頭の開会式では、結婚50周年を迎えられた76組のご夫婦に対し、金婚のお祝い表彰が行われ、元山助役から賞状と記念品が贈られました。本当におめでとうございます。最近では、55周年の「エメラルド婚式」、60周年もしくは75周年の「ダイヤモンド婚式」などもあるようです。5年後、10年後が楽しみですね。

**口之津** 与論島との100年のきずな **かりゆしバンド ライブin口之津**

平成18年12月10日(日)口之津体育館で、与論島から「かりゆしバンド」を迎え、鹿児島県与論町と口之津の交流事業としてのコンサートが開催されました。そもそも、口之津町と与論町の関係は明治32年、当時台風で壊滅的な打撃を受け、島民が生き残りをかけて口之津町へ集団移住したのが始まりです。石炭積み出しの荷役労働に従事し、同町の発展にも貢献、以来長い時を経て、人々の交流は続いてきました。そして平成7年からは、与論島のマラソン大会に参加したり、与論島から修学旅行生を迎えたりするなど、再び交流が活発になり、平成18年3月11日与論町と口之津町は姉妹町を締結。着実にそのきずなは深くなっています。

今回演奏を行った「かりゆしバンド」の音楽は、奄美群島にありながら琉球文化の影響を色濃く受けた独特の調べを持ちます。唄は、「美しい島の自然や風景を、変わることなく後世に伝えていきたい」との思いからか、やさしいながらも強いメッセージをたずさえた音色がいつまでも心に響きました。

**布津** 手づくりゲームも楽しいよ

## 布津地区ファミリンピック



平成18年11月11日(出)布津多目的集会施設およびふるさと道場で、第14回布津地区ファミリンピックが開催され、町内の小学生が自分たちで企画・製作したゲームなど家族みんなで楽しみました。これは同地区の青少年をはじめ、みんなが楽しめるイベントにおいて、年代や立場および様々な団体との交流を通じ、地域全体の青少年健全育成への相互理解を図るとともに、地域の活性化に寄与するため、毎年開催されています。

各コーナーでは、的あてゲームや魚つりゲームなど、シンプルながらも手づくりで温かみのあるものばかり。テレビゲーム世代の子ども達も、とても楽しそうでした。最近ではダンボールを使った簡単にできる工作あそびなど、本や雑誌でもたくさん紹介されています。皆さんもチャレンジしてみたいかがでしょうか。また、今回のイベント進行や昼食のお世話は地元中学生の皆さん。かわいい弟や妹をやさしくお世話する様子がとても心に残りました。

